

「ステージラボ・アートミュージアムラボ高松セッション」の参加募集のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また平素は、財団法人地域創造の事業推進に格別のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当財団では、今年度下半期の「ステージラボ・アートミュージアムラボ～公共ホール等・公立美術館企画運営ワークショップ」となります「高松セッション」を次のとおり開催することといたしました。

この事業は、地域における創造的な表現活動の支援と提供に携わる地方公共団体、公共ホール・劇場等の職員の方々を対象に、資質の向上と相互交流を目的に4日間にわたり実施する少人数形式の研修で、おかげさまをもちまして前回（長久手セッション）までに、延べ1,700名の方々にご参加いただきました。

今回の高松セッションでは、「ホール入門コース」、「自主事業Ⅰ（音楽）コース」、「自主事業Ⅱ（演劇）コース」、「アートミュージアムラボ」の4コースにおいて、公共ホール・劇場及び公立美術館等を中心とする芸術文化施設の運営のあり方や事業の企画・立案、行政としての芸術文化への関わり方に関するセミナーやワークショップなどを開催する予定です。

つきましては、ご多忙のこととは存じますが、趣旨をご理解いただき多数のご参加を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

- 1 事業名 ステージラボ・アートミュージアムラボ高松セッション
- 2 期間 平成19年2月20日（火）から2月23日（金）まで
- 3 会場 サンポートホール高松
所在地：香川県高松市サンポート2-1
- 4 内容 別紙1「ステージラボ・アートミュージアムラボ高松セッション実施要領」のとおり

平成18年11月吉日

各 位

財団法人 地域創造
理事長 林 省吾
(公 印 省 略)

(別紙1)

ステージラボ・アートミュージアムラボ高松セッション実施要領

1 目的

ステージラボ・アートミュージアムラボは、地域の芸術文化に携わる公共ホール・劇場、公立美術館並びに地方公共団体職員の方々を対象とした研修です。

プログラムは少人数のゼミ形式によるセミナー、グループ討論、ワークショップなど双方向の研修で、地域における創造的な表現活動の環境づくりに取り組む人材の育成と、相互交流の促進を目指して実施するものです。

2 開催期間

平成19年2月20日(火)から2月23日(金)まで [4日間]
※ 20日(火) 13:30~20:30 (予定)
21日(水)・22日(木) 9:30~20:30 (〃)
23日(金) 9:30~16:00 (〃)

3 会場

サンポートホール高松
所在地 香川県高松市サンポート2-1
電話 087-825-5000 (研修の内容に関する照会はできません。)

→**ステージラボ・アートミュージアムラボ**に関する照会先 03-5573-4164 [(財)地域創造 関根]

4 開催体制

主催 財団法人地域創造
共催 高松市、財団法人高松市文化芸術財団
後援 香川県(予定)

5 内容

別紙2「プログラム内容」をご参照ください。

※ その他、上記コースの枠を超えた選択制ワークショップ(又はシンポジウム等)も実施予定です。

6 対象者・募集定員

【ホール入門コース】 … 募集定員20名

《対象者》公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む)において、業務経験年数1年半未満(開館準備のための組織にあつては年数不問)の職員。

【自主事業Ⅰ(音楽)コース】 … 募集定員20名

《対象者》買い公演を中心に自主事業を実施している公共ホール・劇場で、業務経験年数が2~3年程度の職員。買い公演以外の自主事業にも取り組みたいと考えているホール・劇場の職員向け。

【自主事業Ⅱ(演劇)コース】 … 募集定員20名

《対象者》買い公演を中心に自主事業を実施している公共ホール・劇場で、業務経験年数が2~3年程度の職員。買い公演以外の自主事業にも取り組みたいと考えているホール・劇場の職員向け。

【アートミュージアムラボ】 … 募集定員20名

《対象者》公立美術館等の職員。

※公立文化施設の管理運営をおこなう民間事業者(NPO含む)は平成18年11月時点で指定管理者として選定済み(議会承認済み)の者に限り、参加可能です(全コース)。

7 申込方法・申込期限

別添の「参加申込書」及び「アンケート回答票」に必要事項をご記入のうえ、下記申込先にFAXまたは郵送等でお申込ください。

※アンケート回答票の未添付・未記載や記載漏れのあるものは、受付いたしかねます。

○参加申込期限 平成18年12月6日(水) 必着にてお願いいたします。

8 参加の可否

締切後、アンケート記載内容、参加希望者の経験、応募状況などを考慮の上(アンケート重視)、参加コースと参加の可否の調整を行い、申込者あて文書により連絡させていただきます。

9 参加費

研修費用は無料です(旅費・宿泊費、食費のみご負担いただきます)。

参加申込送付先(問い合わせ先)

財団法人地域創造 芸術環境部 担当:関根 健

〒107-0052 東京都港区赤坂6-1-20 国際新赤坂ビル西館8階

電話 03-5573-4164

FAX 03-5573-4060

Eメール sekine@jafra.or.jp

(別紙2)

ステージラボ高松セッション コース別プログラム内容

○ ホール入門コース

コーディネーター 能祖 将夫

(北九州芸術劇場プロデューサー、桜美林大学専任講師、小美玉市四季文化館芸術監督)

みなさん、こんにちは。今回、「ホール入門コース」でコーディネーターを務めさせていただきます能祖です。

いきなりですが、「公共ホール」は何のためにあるのでしょうか？様々な答えが返ってきそうですが、極々シンプルに一言で言えば、舞台芸術の力で地域の人々を生き生きとさせるためではないでしょうか？

今、「舞台芸術の力」と書きました。そうです、舞台芸術には“力”があるのです。ところがそれを知らない、少なくとも実感していないホール職員が数多くいるのもまた事実です。これっておかしなことだと思いませんか？

車の魅力を知らない人に車を造ったり売ったりはできません。医学の力を知らない人に病人を手術したり薬を処方したり、あるいは病院や薬局を運営したりそこで働くことさえできません。それと同様、舞台芸術の力を知らない者に、舞台芸術を扱ったりチケットを売ったり劇場やホールで働いたりする資格はないはずなのです。ここで言っているのは“知識”のことではなく、舞台芸術の力に対する“実感”のことです。

なので、入門コースではまずは身をもって芸術の力を体験してみよう、それも市民の立場で、ということをやってみたいと思っています。その体験を経た後、すべての源である「企画」ということを考えてみたいのです。扱う素材は、絵本、詩、物語、ジャズ、クラシック、朗読、コーラス…と多彩です。芸術の力の享受者であり実践者であり創造者である多様なアーティストもお呼びします。

皆さんの参加をお待ちしています。一緒に楽しくも実のある4日間にしましょう。

○ 自主事業Ⅰ（音楽）コース

コーディネーター 中村 透

(作曲家、南城市文化センターシュガーホール芸術アドバイザー)

食の世界にたとえていうと、手作りの家庭料理あり、マニュアルだよりのファミレスあり、アウトドアが売りの屋台あり、創作デザインに命をかけるカリスマ・シェフや料理人のレストランあり。いまの日本の食風景は、まさに百花繚乱のシーン。みかけはともあれ、いずれも食べてしまえば、なにがしか身体の養分にはなることでしょう。

音楽のもまた然り。街にはポップ・ミュージックがあふれ、学校には学校音楽というジャンルが孤墨をまもり、都会の片隅や地方ではいまだ演歌がパワフルにうなりつづけています。これらは中央発信型のメディアの波にのり、かつ市場主義を追い風にして都市や地域を消費型音楽に染めあげてきたともいえましょう。しかし、聴いてしまっただけで、魂の栄養とな

って残るものはどの程度であるでしょうか。

音楽は、元来ひとつのコミュニティーのなかで生命を宿し、そこに生きる人たちの魂をすくい上げ、身体の協働を促しながら祈りととともに人々を結びつけてきた。いわば“身と心”の共同手仕事という文化伝承の歴史でもあります。

このコース研修では、原点に立ち返って音楽の存在価値を次の手順で捉えなおしたい。ひとつは、私たち人間の生活行動のなかに隠れている原石の輝きともいえる音楽シーンの探求。第二に、地域社会で世代を超えた人々を結ぶことができるパワフルな絆のツールとしての実例探求。最後に、そうした個人体験、共同体験を土壌としてこそ交信しあえるであろう、優れた手技（てわざ）、魂の輝きとしての芸術音楽の意味。

地域住民、学校、NPO、アーティスト、文化行政者が手を携え、公共ホールを拠点に地域の人々の創造性を活気づけ、結びつけるツールとしての音楽創造のノウハウを探す。このような視点から、みなさんといっしょに公共ホールの新しい視界を拓きたいと願っています。

ワークショップ、討議、実演などを交えながら、身体のあらゆる部位と直結した五感+第六感を動員した時間をともに創りませんか。

○ 自主事業Ⅱ（演劇）コース

コーディネーター 津村 卓

（財団法人地域創造プロデューサー）

ひと口に演劇といっても皆さんの周りには多種多様な演劇があると思います。伝統芸能系から小劇場まで多くの表現方法が存在し、なおかつその中でのコラボレーションがおこなわれることで、更なる広がりを見せています。しかしその多くは市場の中において消費されている現状も少なくありません。これらの消費的作品を自主事業として公演することだけが公立ホールの仕事という時代ははるか昔に終わっています。その後ワークショップ等の事業も増えてきましたが、未来において何を目的に進んでいけばよいのでしょうか。

今回の演劇コースのテーマは公立ホールにおける「演劇」が果たす役割について整理していきたいと思います。もう少し具体的に言うと、現在の自主事業の中心的な「鑑賞」事業をどういう目的と方向性を持って実施するか。それにともない「交流(普及)」「創造」の各事業をいかに絡み合って進めていくのか。もちろん地域において、またそれぞれの事業における温度差はありますが、このラボでは創造をベースにアウトリーチへの展開を中心に構築していこうと思います。創造はすべての事業の根幹に結びつきます。観ることへの理解力や、演劇の持つ力を確認し想像力を養うことは創造事業を手がけることから生まれてくるはずです。今回は創造の内容として演劇と他の芸術とのコラボレーションを考えています。ぜひ新しい事業を一緒に考えてみましょう。

○ アートミュージアムラボ

コーディネーター 黒沢 伸

(ミュージアム・エドゥケーター、金沢湯涌創作の森所長補佐)

「皆さん、あきらめていませんか？」—何を？って…凄く楽しい美術館を作ることをです。

昨今、ロンドンのテートモダンがさらなる分館建設計画を発表しましたが、それによれば2020年の時点で同館は世界のイニシアティブをとる美術館となる、と明言しています。それが現実のものとなるかどうかはともかく、はたして今、日本の美術館、あるいはそこで仕事をする我々は、世界へ、未来へ向けてこうした宣言ができるだけの「気概」や、あるいは具体的な「戦略」を持ち得るのでしょうか？ 海外の美術館などに見られるこうしたエネルギーギッシュな展開を誠にうらやましく思う一方で、指定管理者への移行を含めた近年の美術館をめぐる環境変化の中、我々も決して手をこまねているわけではないはずですが、でもどこか力が出ない—としたらそれはなぜ？ もしかしたら、情熱がない？ 何かあきらめている？

そこで今一度問います・・・楽しく仕事してますか？

今回のセミナーのゲストは、異分野も含めた確信犯＝“あきらめない方々”です。共通するのは確実な“根拠”、そして“楽しさ”。ショッピングモールも遊園地も映画館も基本的に美術館のライバルであり、そのどれも楽しくなければ人は来ません。また、今やユーザーの参加性を促す商品やプロジェクトはどのような分野でもますます重要になってきています。ここでいうユーザーとは、美術館に置き換えてみるなら、観客はもとより共に仕事をするアーティスト、業者さんやデザイナー、ジャーナリスト、企業や大学、学校や先生方、NPOや友の会、ボランティアスタッフ、むろん職員も含まれることになるでしょう。私は、こうした人々との協働を含めた美術館活動のプロセスにも「楽しさ」を求めたいと思っています。では、それをどう実現するのか？ 楽しさは、その裏に確実な「根拠」を必要としています。

プログラムはヒヤリング、ワークショップ、プレゼンテーション、デモンストレーションで構成し、参加性の高いゼミとして具体的なプロジェクトの作成やイベントの実践を含め、これらを全員で「経験」したいと思います。それは楽しさの中に身を置くという「経験」です。すなわちこのセッションで美術館について考えることとは、レストランのメニューやレシピ作りではなく、料理を分析して眺めるのでもなく、具体的に作って食べるプロセスそのものです。また、互いに学ぶことを目的に、参加者自身によるプレゼンテーションも企画いたします。

ステージラボ・アートミュージアムラボ高松セッション コーディネータープロフィール

○ 能祖 将夫 (のうそ まさお)

1958年、愛媛県生まれ。慶應義塾大学文学部卒。劇団四季を経て、85年より01年まで青山劇場、青山円形劇場のプロデューサーとして数多くの演劇作品、音楽作品を手がける。現在は北九州芸術劇場プロデューサー、桜美林大学専任講師、小美玉市四季文化館芸術監督。また、地域創造の「公共ホール音楽活性化事業」など、全国の公共ホール活性化のためのコーディネーターやアドバイザーを務める。ジャズやクラシックのアーティストと組んだ『ジャズ絵本』や『月猫えほん音楽会』、『えほん de クラシック』では、絵本の朗読家として出演、全国で公演を行っている。音楽劇やオペラの作詞、脚本も手がける。最近の作品は『ファウスト』『ルル』『星の王子さま』『わたしの青い鳥』など。

○ 中村 透 (なかむら とおる)

国立音楽大学卒業、同大学院作曲家修了。高田三郎、島岡譲の両氏に師事。ヤマハ音楽振興会を経て1975年琉球大学に赴任、現在に至る。昭和52年度国民音楽進行財団吹奏楽作曲コンクール第一位（「ばんがむり」）。平成2年度文化庁舞台芸術創作奨励特別賞（グランプリ）受賞（オペラ「キジムナー時を翔ける」）。

初のオペラ作品として喜劇「銀行強盗」（1987）で、89年に沖縄創作オペラ協会旗揚公演として制作上演し、続いて「キララ～南の島の雪女」（1989）「キジムナー時を翔ける」（1990）等の台本・作曲・音楽監督を行う。また青少年のためのオペレッタ「モーイのとんち」（1991）は、沖縄各地で数多く上演された。その後も「龍神の玉」（香川国民文化祭 1997）「御柱」（カノラ芸術祭・長野 1998）「日光」（栃木県 2001）などの日本各地のオペラ作品を委嘱され、台本・作曲とともに創造する作曲家として評価されている。

合唱曲は「四つの沖縄の歌」「真南風の祈り」などが代表作で、その他オーケストラ、室内楽曲等地域の伝統文化に素材をおく作品をてがけてきた。これらの作品は、音楽之友社、カワイ楽器出版、春秋社、日本ビクター・エンタテインメント社などから刊行・レコーディングされ、海外諸国でもしばしば演奏されている。

現在、琉球大学教授および沖縄県立芸術大学大学院講師をつとめ、作曲理論のほか身体表現論、地域文化論、舞台制作論等を担当。平成6年より沖縄県佐敷町に設置された<シュガーホール>芸術監督（芸術アドバイザー）を兼任し、プロ・アーティストと市民参加型の共同ステージの制作にあたっている。

○ 津村 卓 (つむら たかし)

大阪芸術大学を卒業後、大阪の情報誌「プレイガイドジャーナル」で企画を担当。84年大阪ガスの扇町ミュージアムスクエアを企画。85年～89年同スクエアのプロデューサー・副支配人を努める。87年より兵庫県伊丹市の伊丹市立演劇ホール（アイホール）チーフプロデューサー。95年より、財団法人地域創造プロデューサー。97年よりびわ湖ホールの演劇部門に関わる。00年より北九州市新都心整備文化拠点（北九州芸術劇場）アドバイザープロデューサー。01年より長崎県及び長崎市文化アドバイザー。02年より北九州芸術劇場チーフプロデューサー。長野県松本市新市民会館企画運営委員会委員長。03年4月より埼玉県芸術文化振興財団参与。近畿大学・共立女子大学非常勤講師。

○ 黒沢 伸 (くろさわ しん)

1959年東京都生まれ。1989～水戸芸術館現代美術センター、1999～金沢21世紀美術館に勤務。現在は工房・研修施設「金沢湯涌創作の森」所長補佐。水戸芸術館時代には「美術」というカテゴリーを越えた新しい表現としてのワークショップやパフォーマンス活動をオーガナイズ、ヤノベケンジ、曾根裕、イチハラヒコロなどのアーティストをフューチャーする。金沢21世紀美術館では、ソフトの視点から建築設計に関わり、また、アウトリーチプログラムとしてのイベントの実施、コレクションの形成、特に建築と一体化したコミッションワークの導入を企画・担当。開館後は、多くのボランティアスタッフとともに市内の小中学生4万人全員を美術館に呼ぶ「ミュージアム・クルーズ・プロジェクト」を実施した他、作家の滞在を様々な市民間のコミュニケーション活動に結びつけるアーティスト・イン・レジデンス・プログラムなどを担当。今年度より金沢湯涌創作の森へ出向し、小学生対象の林間学校プログラムや施設ボランティアの創設、子どもたちとともに施設を公園化するアミューズランドプロジェクトに着手。



市民文化の創造拠点

サンポートホール高松



●アクセス●

- JR 高松駅から……………徒歩 3 分
- ことடன்高松築港駅から…徒歩 5 分
- 高松港から……………徒歩 2 分
- 高松自動車道 高松中央 IC より国道 193 号 車で約 20 分
- 高松空港からことடன்空港連絡特急バス 高松駅行 40 分

財団法人高松市文化芸術財団

〒760-0019 香川県高松市サンポート 2 番 1 号
 TEL (087)825-5000
 FAX (087)825-5040

竣工：2004 年 2 月

開館：2004 年 5 月 20 日



Sunport Hall Tokushima

大ホール	プロセニウム型 (固定席 1,500 席)	演劇・音楽などの舞台芸術はもちろん、会議・集会にも対応できる高性能・高品質の多機能型ホール。	 
第 1 小ホール	プロセニウム型 (固定席 312 席)	見やすい勾配で、創り手と受け手、舞台と客席の一体感を高めた親しみやすい空間。	 
第 2 小ホール	フリースペース型 (移動席 308 席)	移動観覧席と分割昇降式舞台を備え、多機能なイベント空間、展示会場、分科会場ともなり、会議室や国際会議場と連携も容易なホール。	 
リハーサル室 練習室	リハーサル室 3 練習室 6 ミキシングルーム 1 和室 1	アートヴィレッジ (リハーサル室・練習室) は、防振・防音性能を確保。日本舞踊や民謡などの稽古にも使用できる 30 畳の和室は、茶席としても利用可能。	 
会議室	大会議室 1 中会議室 2 小会議室 7	会議や研修、ワークショップ、各種コンベンションの分科会場としても利用でき、コンベンションネットワークシステム、同時通訳設備などを完備した会議室もあり。	 
市民ギャラリー	展示スペース	専用の搬入スペースや倉庫なども備え、市民に開かれた展示ギャラリー。	